

# 摂南大学大学院の概要

## 〈2027年度入学者用〉

### — 目次 —

- 1. 大学の沿革・趣旨・教育研究上の目的 . . . . . P 1
- 2. 現代社会学研究科 . . . . . P 3



## 1. 大学の沿革

|             |                                                                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1975(昭和50)年 | 摂南大学を開学、工学部を開設                                                                                                    |
| 1982(昭和57)年 | 国際言語文化学部・経営情報学部を増設                                                                                                |
| 1983(昭和58)年 | 薬学部を増設                                                                                                            |
| 1988(昭和63)年 | 大学院薬学研究科修士課程(薬学専攻)を増設<br>法学部を増設                                                                                   |
| 1989(平成元)年  | 大学院工学研究科修士課程(社会開発工学専攻、機械・システム工学専攻)を増設                                                                             |
| 1990(平成2)年  | 大学院薬学研究科博士課程(薬学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設<br>大学院工学研究科修士課程(電気電子工学専攻)を増設                                                |
| 1995(平成7)年  | 大学院経営情報学研究科修士課程(経営情報学専攻)を増設                                                                                       |
| 1997(平成9)年  | 大学院法学研究科修士課程(法律学専攻)を増設                                                                                            |
| 1999(平成11)年 | 大学院国際言語文化研究科修士課程(国際言語文化専攻)を増設                                                                                     |
| 2005(平成17)年 | 大学院経営情報学研究科博士課程(経営情報学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設<br>国際言語文化学部を外国語学部に変更                                                  |
| 2006(平成18)年 | 薬学部を6年制に移行                                                                                                        |
| 2008(平成20)年 | 大学院工学研究科博士課程(創生工学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設                                                                           |
| 2010(平成22)年 | 経済学部を増設<br>経営情報学部を経営学部に変更<br>工学部を理工学部に変更                                                                          |
| 2012(平成24)年 | 看護学部を増設<br>大学院薬学研究科博士前・後期課程(薬学専攻)を博士課程(医療薬学専攻4年制)に移行                                                              |
| 2014(平成26)年 | 大学院経済経営学研究科修士課程(経済学専攻・経営学専攻)を増設<br>大学院工学研究科を理工学研究科に変更し、生命科学専攻(修士課程)を増設、機械・システム工学専攻および電気電子工学専攻を生産開発工学専攻(博士前期課程)に改組 |
| 2016(平成28)年 | 大学院理工学研究科博士課程(生命科学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設<br>大学院看護学研究科修士課程(看護学専攻)を増設                                               |
| 2020(令和2)年  | 農学部を増設                                                                                                            |
| 2022(令和4)年  | 国際学部を増設                                                                                                           |
| 2023(令和5)年  | 現代社会学部を増設                                                                                                         |
| 2024(令和6)年  | 大学院農学研究科博士課程(農学専攻)を増設                                                                                             |
| 2026(令和8)年  | 大学院看護学研究科博士課程(看護学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設                                                                           |
| 2027(令和9)年  | 大学院現代社会学研究科修士課程(現代社会学専攻)を増設                                                                                       |

## 2. 趣 旨

本大学院は、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

修士課程・博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

博士課程・博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

## 3. 教育研究上の目的

現代社会学研究科現代社会学専攻は、多角的な専門分野の学知を修得し、高い倫理観と研究スキルをもって、他者と協働しながら、複雑化する現代社会における諸問題の解決法を構想するとともに、専門的な社会調査によって得られたデータと理論的裏づけのある社会問題の解決法・研究成果を論理的にまとめることを通じて、社会学の高度な専門的能力をもって社会に貢献することのできる、現場に強い人材を養成することを目的とする。

## 現代社会学研究科 修士課程

|        |          |           |          |          |          |            |
|--------|----------|-----------|----------|----------|----------|------------|
| 研究指導教員 | 藤井 和佐 教授 | 落合 知子 教授  | 樫田 美雄 教授 | 小池 高史 教授 | 後和 美朝 教授 | 須藤 遙子 教授   |
|        | 竹中 祐二 教授 | 竹端 佑介 教授  | 田中 晶子 教授 | 堀田 裕子 教授 | 山本 圭三 教授 | 上野山 裕士 准教授 |
|        | 江口 怜 准教授 | 谷 めぐみ 准教授 |          |          |          |            |

| 授業科目         | 担当教員                                                                                         | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アカデミック・リテラシー | 竹中 祐二 教授<br>竹端 佑介 教授                                                                         | 近年の社会においては、研究活動や研究成果に対して、「社会・経済・文化等に対して与えた効果や影響」、すなわち「社会的インパクト」が求められている。このように、学術的関心と社会貢献のバランスを必要とすることを踏まえて、本科目では、研究者に求められる専門的な態度と知見について学修することを目的とする。そのために、専門領域やテーマ・トピックの違いを超えた、データを収集し、分析するための高度かつ汎用的な知識やスキルについて学修すると共に、研究活動それ自体においても、また研究成果の公表・社会への還元においても求められる、「社会の一員」であることの理解と自覚に基づく、必要な調査・研究倫理について学修する                                                                                                   |
| 社会調査特別演習Ⅰ    | 小池 高史 教授                                                                                     | 修士論文の研究に活用できるように、質的データの分析法を習得するとともに、さまざまな質的調査法に関して学ぶ。とくにインタビュー調査の実践的な能力を習得する。質的データとしては、地縁組織が発行してきた地域広報誌を取り上げ、演習のなかで内容分析を行い、その成果を報告する。参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析といった多様な質的調査を活用している学術論文を読み解きながら、質的調査法について専門的に理解する。受講者自らが、インタビュー調査を企画・準備・実践し、その成果を報告することで、実践的な調査能力を身に付ける。<br>※本科目は専門社会調査士科目[J]に対応するものである。                                                                                   |
| 社会調査特別演習Ⅱ    | 山本 圭三 教授                                                                                     | 本演習では、修士論文の研究に活用できるように、主として多変量解析の手法（重回帰分析・ロジスティック回帰分析、因子分析・主成分分析、クラスタ分析、共分散構造分析など）を習得し、量的社会調査の能力を身に付けることを目指す。演習内での作業を通して、受講生が自らの研究課題について計量的なデータを用いた検証ができるようになることが、本演習の目的である。<br>※本科目は専門社会調査士科目[I]に対応するものである。                                                                                                                                                                                                 |
| 専門 FAL 特別演習Ⅰ | 藤井 和佐 教授<br>落合 知子 教授<br>樫田 美雄 教授<br>小池 高史 教授<br>後和 美朝 教授<br>須藤 遙子 教授<br>竹中 祐二 教授<br>竹端 佑介 教授 | おもに1年次向けに開講する専門 FAL（フィールド型アクティブ・ラーニング）科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、これら連携先が抱える課題の解決に向けた活動にリーダーシップを発揮して、主体的に取り組む。講義ではまず、選定されたフィールドについて、分析方法と分析視点の観点から、具体的には、1) 量的、2) 質的、および、3) ミクロ、4) メゾ、5) マクロ、の5つのアプローチから分析し、履修生と教員による対話を通じて、フィールドの現状と課題を明らかにする。つぎに、フィールドにおける連携先との協働の実践に履修生自身の学術的専門性をいかして取り組み、連携先との関わり方、実践への取り組み方、成果の整理方法、成果をフィールドに還元するための方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて履修生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。 |
| 専門 FAL 特別演習Ⅱ | 田中 晶子 教授<br>堀田 裕子 教授<br>山本 圭三 教授<br>上野山 裕士 准教授<br>江口 怜 准教授<br>谷 めぐみ 准教授                      | おもに2年次向けに開講する専門 FAL（フィールド型アクティブ・ラーニング）科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、これらの連携先が抱える課題の解決に向けた活動にリーダーシップを発揮して、主体的に取り組む。とくにこの授業は、フィールドにおける連携先との協働の実践に履修生自身の学術的専門性および専門 FAL 特別演習Ⅰ等における実践経験をいかして取り組み、連携先が抱える課題を多角的かつ学術的に分析する手法、実現可能かつ質の高い解決策の導出、具体的な実践への取り組み方、成果の整理方法、成果をフィールドに還元するための方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての資質を身につけることが期待される。                                                               |

| 授業科目       | 担当教員       | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域社会学特論    | 藤井 和佐 教授   | 地域社会をフィールドとした経験的研究をおこなう際に必要な専門的知識と、高度な分析的視点を身につけることを目的に、おもに反転授業とディスカッションにより授業を展開する。女性差別撤廃委員会第 89 会期第 9 次日本報告審議総括所見（2024）の「E. 主な懸念事項と勧告」において、「農山漁村女性の意思決定、特に農業政策の策定への参加が低いこと」（para. 45 (a)）が指摘されていることからわかるように、農林水産業地域のジェンダー平等は喫緊の課題である。そこでジェンダー平等をめぐる地域社会・地域自治の空間的および時間的連続と非連続を授業の大テーマとし、構造と、組織を含む担い手に注目した村落社会学・地域社会学・都市社会学等の先行研究にたいする受講生によるレビューと担当者によるインタープリテーションにもとづいて議論を深める。                           |
| ジェロントロジー特論 | 小池 高史 教授   | ジェロントロジー（老年学）のテーマのなかでも、とくに高齢者の社会参加（就労、ボランティア活動、地縁組織での活動）と社会関係（家族関係、友人関係、近隣関係）について講義し、高齢者と社会との関わりについて理解する。『老年社会科学』や『応用老年学』などの老年学の学術雑誌に掲載されている論文を読み解くことで、老年学の最新の知見を習得する。老年学のなかでも社会的な問題を扱う社会老年学について、専門的な知識を習得することを目指す。                                                                                                                                                                                      |
| 労働社会学特論    | 山本 圭三 教授   | 本講義は、現代日本における職業・労働に関する問題、そこにある謎に対し受講生が柔軟な姿勢で研究していくための知識・スキル・センスを身につけることを目標とするものである。そのため講義では、学部教育において受講生がこれまで学んだ社会学の理論・学説などを前提としつつ、（1）古典的な議論の重要性の理解とその応用、（2）データを用いた実証分析の技術、（3）同分野の最新研究の動向と新たな議論の可能性などについて学んでいく。講義の主題は職業・労働社会学ではあるが、講義の中では関連分野の議論も適宜触れる予定にしている。そのため関連分野に興味を持つ学生にも受講をお勧めしたい。                                                                                                                |
| 地域スポーツ特論   | 谷 めぐみ准教授   | 本講義では、地域社会におけるスポーツの意義と役割、生涯スポーツの重要性や地域住民のスポーツ活動の振興に関する理論や実践を論文や事例から学び、地域とスポーツの相互作用について専門的に理解を深める。そのうえで、スポーツの支援の現状や課題について、国および地域行政のスポーツ政策や具体的取り組み、スポーツ関係機関の取り組みや対象別（子ども、成人、高齢者、女性、障がい者等）のスポーツ活動の実態および課題などを整理し、地域におけるスポーツ推進と支援のあり方について専門的な知識を得ることを目的とする。                                                                                                                                                   |
| 地域福祉特論     | 上野山 裕士 准教授 | 地域に存在するさまざまな生きづらさを地域で暮らす、活動する、働く人びとの力で解消しようとする地域福祉の考え方を深く理解し、だれもが支えあい、役割をもって活躍できる地域共生社会を実現するための具体的な手法について検討する。本講義では、地域福祉の歴史的展開、理論、現状と課題について、教員による話題提供や文献講読、教室内での対話をもとに理解を深めていく。同時に、本講義での学びを地域社会における実践へとつなげられるように、実践事例の紹介や受講生によるアクションプラン策定にも取り組む。これらの学びを通じて、受講生は、地域福祉について深く理解するとともに、理論を実践へと昇華させ、地域社会を牽引するリーダーとしての資質を獲得することが期待される。                                                                         |
| 身体社会学特論    | 堀田 裕子 教授   | 本授業の目的は、身体を通じて秩序・規範・関係性について考える視座を獲得することである。身体社会学は、身体の客体性と主体性という両側面を、自己、他者、社会との関係のなかでとらえる社会学の一領域である。人間は身体的存在であり、その身体は単に規範や価値を刻印される受動的な客体ではなく、それらを能動的に生成する主体でもある。その性質を理解することは、人間と人間・人間と社会とのより良い関係性を探究するうえで重要である。本授業では、近代から現代に至るまでの身体社会学の諸研究を検討していく。具体的には、身体をめぐる権力やジェンダーといったテーマ、また、医療、ファッション、ケアといった社会的実践を通じた身体の実験と意味付け、そして、身体社会学の学際的な拡がり概観した後、身体の主体性に焦点を当て、その現れとしての身体的表現や実践を捉えるために、ビデオ・エスノグラフィーの理論と実践にも触れる。 |
| 社会心理学特論    | 田中 晶子 教授   | 社会心理学において取り扱われるテーマ（社会的認知、社会的影響、対人コミュニケーション、集団の中での個人行動）について理論的・実証的研究を講義形式で概観し、人間と人間・人間と社会とのあり方の観点から考察する。また社会心理学やその応用領域（司法や福祉、教育領域など）における学術雑誌に掲載されている論文を読み、近年の社会心理学研究の動向とその応用可能性について検討し、議論する。それらを通し、受講生自身の関心領域とも関連づけながら、社会心理学研究の学術的・社会的意義について、専門的な観点から考察する。                                                                                                                                                |

| 授業科目         | 担当教員     | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 犯罪社会学特論      | 竹中 祐二 教授 | 犯罪社会学は、その英字名称が示す通りに、副次的には「社会学」をベースとしながら、学際的な行動科学としての「犯罪学」を基盤として展開されてきた。このことを異なる角度から捉え直してみると、犯罪社会学は「実践の学」としての性質を持つものであり、それゆえ「人間」と「社会」との関わりを有している事実にも目を向ける必要がある。したがって「犯罪社会学」の理解にあたっては、犯罪・非行ならびに隣接する様々な逸脱行動を総体的に捉えつつ、その定義付けをめぐる「社会」のあり様を強く意識しなければならない。これらのことから、本科目では、逸脱行動論を基盤としつつ、より今日的な犯罪観ならびに逸脱行動についての理解を深めると共に、適宜、犯罪・非行・逸脱行動へとアプローチする方法論について議論する。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 臨床心理学特論      | 竹端 佑介 教授 | 複雑化した現代において「心を病む」ということは、もはや例外的なものではなくむしろ身近なものとして認識されてきている。本講義では、臨床心理学の知見を用いて「心を病む」現象を科学的に探究し、現代社会の理解につなげる。そのため、臨床心理学の歴史やその対象、支援論を通じて、社会との関わり方の観点から臨床心理学の役割について考える。本講義は、文献講読を行い、議論を通じて学術的造詣を深めるだけでなく、科学的根拠に基づいた知識や判断力を修得する。<br>以上のことから本科目では、臨床心理学の専門的知識をもとに、社会との関わり方に焦点をおきつつ様々な臨床心理学における高度な支援法について学ぶことを目的とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 文化社会学特論      | 櫻田 美雄 教授 | 文化社会学は社会学の一部であると同時に全体でもある。既存の文化を分析対象とすると、それは「文芸社会学」や「演劇社会学」や「映画社会学」や「音楽社会学」等の諸・連字符社会学の集合体として、社会学の一部である。しかし、「文化現象として扱い得るすべてのもの」を分析対象とすると、それは社会学のフロンティアを切り開く活動であり、「人々の世界知覚活動」の全体を扱う点で、社会学全体と拮抗する学的領域ともなる。本特論の前半では、＜前者の狭義の文化社会学から入って後者の広義の文化社会学までの展開を連続性を持ったものとして示す＞。この作業を、大学院の水準で行う。<br>なお、本特講の基盤的方法論としては「エスノメソドロジー・会話分析（以下 EMCA）」を採用する。なぜなら、「EMCA」こそは「人々の実践（＝文化）から学ぶ社会学」として発展してきたものだからだ。本特講の後半では、受講生が「リアル世界のフィクション性、及びフィクショナルな世界のリアルさ、の両面の発見」を、学的に自力でできるように、批評文の執筆・添削等で訓練する。その結果受講生は、「文化の社会性を理解するだけでなく、その過程を記述・分析できる」ようになる。これはつまり、「社会を対自化できるようになる」ということであり、そのような形での「社会学的態度と社会学的想像力の血肉化」こそが、本特講の最終獲得目標である。 |
| メディア社会学特論    | 須藤 遙子 教授 | 本授業では、メディア社会学分野における自身の研究の遂行能力を高めるための講義を行う。専門的研究の基盤となる先行研究、類似研究に関する文献を講読し、教員による解説をもとに考察・討論を行うことが中心となる。文献のキーワードとしては、メディア史研究、プロパガンダ研究、消費社会学、カルチュラル・スタディーズ、SNS 研究などである。研究方法の立案、修正を行なえるよう、本講義を通じて、研究者としての専門的な知識と学問的体力を身につけていく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ヘルスプロモーション特論 | 後和 美朝 教授 | ヘルスプロモーション論の基礎知識である自助、公助の考え方や各ライフステージの健康課題、わが国の各種保健施策に関する知識等を基礎として、健康（Health・Well-being）、Quality of Life（QOL）の考え方やそれらを増進するための最新の専門的なトピックスを紹介しながら、さらに理解を深める。また、自学自修を促進するために履修者が関心を持っている健康課題や QOL、保健施策、各種制度や指針等に関する文献講読を行い、ディスカッションを通して学術的造詣を深めるだけでなく、科学的根拠（エビデンス）に基づいた知識や判断力を修得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教育史特論        | 江口 怜 准教授 | 近代学校教育制度の構造的特徴や内在する課題などを理解したうえで、近現代日本の事例に即して、教育制度や実践の歴史的展開過程を学ぶ。とりわけ、戦後日本の事例に焦点を当てながら、各時代の社会変動が教育にもたらした影響について学び、社会変革に資する批判的教育実践の可能性について、いくつかの事例を通して考える。これらの学びを通して、教育現象に限らず、歴史的アプローチを通して社会現象への認識を深める視点や方法論を獲得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| 授業科目     | 担当教員                                                     | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エスニシティ特論 | 落合 知子 教授                                                 | <p>人の国際移動の背景とその結果によって巻き起こる様々な事象を理解する。そのうえで主に大阪と神戸での取り組み、カナダとボリビアでの取り組みなどを中心にケースから多文化社会の運営、排外主義との対峙の作法を検討する。</p> <p>その過程で現代の政策とその諸問題について理解し、私たちに何ができるのか考える。障害者問題、女性問題、そして外国人問題というようにあたかも問題はマイノリティ側にあるような「問題化」ではなく、障害者の参画の難しい社会、男女間の格差是正を拒む社会、通名を使い外国にルーツも持つことを隠さざるを得ない社会をいかに変えていくことができるのかという視点を持つことが求められる。</p> |
| 社会学研究Ⅰ   | 藤井 和佐 教授<br>落合 知子 教授<br>樫田 美雄 教授<br>小池 高史 教授<br>後和 美朝 教授 | <p>本授業の目的は、修士論文の執筆にむけて先行研究を検討しつつ、課題研究を通じて社会調査に関する知識と技能を身につけることである。まず各自の研究課題に関する理論と方法論について学修した後、問いの設定から分析と考察に至るまでの調査研究の一連のプロセスを実践的に学修する。教員との議論・討論を繰り返し、社会調査研究に関する高度な専門知識と実践力を修得していく。</p> <p>※本科目は、専門社会調査士科目[H]に対応するものである。</p>                                                                                  |
| 社会学研究Ⅱ   | 須藤 遙子 教授<br>竹中 祐二 教授<br>竹端 佑介 教授                         | <p>本授業の目的は、修士論文の具体的な方向性を定めることである。まず論文のテーマを確定し、それに基づいて調査研究を計画・実施する。データ収集後は、先行研究との対話や教員との継続的な議論を繰り返しながら、修士論文の構成を作成する。</p>                                                                                                                                                                                       |
| 社会学研究Ⅲ   | 田中 晶子 教授<br>堀田 裕子 教授<br>山本 圭三 教授                         | <p>本授業の目的は、「社会学研究Ⅰ・Ⅱ」において修得した専門知識と実践力を前提に、修士論文の執筆を進めることである。まず先行研究のレビューをおこないながら研究の独創性を検討しつつ、調査研究の設計から分析と考察に至るまでのプロセスを再確認する。また、分析と考察について教員との議論・討論を繰り返しながら、修士論文を作成していく。</p>                                                                                                                                      |
| 社会学研究Ⅳ   | 上野山 裕士 准教授<br>江口 怜 准教授<br>谷 めぐみ准教授                       | <p>本授業の目的は、これまでに修得した専門知識と実践力を前提に、修士論文を完成させることである。「社会学研究Ⅲ」における中間報告会後に設定した課題に基づき、必要に応じて、調査研究の一連のプロセスを振り返り検討する。教員との議論・討論を繰り返しながら、論文の意義と限界を見定め、修士論文を精緻化し完成へと導く。</p>                                                                                                                                               |